# 春日井市図書館　図書館だより　2020 年春号

**おすすめ本紹介**

# ＳＦ

春は出会いや別れなど、変化の季節ですね。新しい環境にちょっぴりクタビレたら、空想の世界で息抜きしませんか？

## 『幼年期の終わり』

**クラーク/著　池田　真紀子/訳　光文社**

**933/ヨ/08（図書館３階文庫）**

SF の古典といわれるこの作品は、異星人の侵略から人類の最後が、壮大なスケールかつ哲学的な奥深さで書かれています。1950 年代はじめの小説（1989 年　第一部を改稿）の感じはなく、半世紀以上後の今もグイグイ引き込まれてしまいます。広大な宇宙の小さな地球という星で“人生とは？幸せって？”などと考えているあなたにおすすめします！　まえがきと解説も読み飛ばさないでね。

## 『なめらかな世界と、その敵』

**伴名　練/著　早川書房**

**Ｆ/ハン/19　（図書館４階一般）**

６作品の短編集です。中でもイチオシは『ひかりより速くゆるやかに』です。原因不明の奇妙な事故で超低速化する列車、閉じ込められた幼なじみを救出しようとする高校生の心の葛藤と仲間を想う情熱、作中の投稿小説のラストと本編のハッピーなラスト、感動です。

標題作の『なめらかな世界と、その敵』は時空を自由に移動できる世界。移動の能力を失っても、真直ぐ生きる若者の感性と友情にキュンとします。

## 『献灯使』

**多和田　葉子/著　講談社**

**Ｆ/タワ/14（ふじとう/知多）**

こちらも、中短編集です。標題作の『献灯使』は還元不可能なまでに汚染され鎖国状態の閉ざされた世界で暮らす老人と曾孫。老人はいつまでも元気で、こどもはとてもひ弱で…。日本の近未来の姿???と考えさせられます。重いテーマですが、むこうに薄っすら光が射しているような、不思議な読後感に救われます。

**春日井市図書館**　電話：(0568)85-6800
〒486-0844　愛知県春日井市鳥居松町５丁目 44 番地　文化フォーラム春日井　３・４階
開館時間：午前９時～午後８時　休館日：月曜日（休日の場合はその直後の休日でない日）

おすすめ本紹介

# 仕事

仕事をしているみなさんは、他の仕事につきたいと思ったことはありますか？今回、書店、百貨店、アニメ制作会社を選んでみました。図書館と似ているようで違う書店、きらびやかなイメージのある百貨店、日本のクールジャパンを支えるアニメ制作会社。自分が働いていると想像して読んでみてはいかがでしょうか。

## 『書店ガール１』

**碧野　圭/著　PHP 研究所**

**F/アオ/14-1（図書館３階文庫）**

書店の副店長、理子と自分勝手な部下の亜紀が、職場の危機に仲が悪くても手を取り合い頑張ります。２人は閉店になろうとする店を救えるのか？

職場のいじめや女性上司への男性のねたみなど、読んでいるうちに辛くなるかもしれません。でも、最後には自分も頑張ろうと思えます。

## 『幸腹な百貨店』

**秋川　滝美/著　講談社**

**F/アキ/15（図書館４階一般/坂下）**

百貨店の立て直しとシャッター街になった地域が書いてある今の社会問題を切り取る作品。でも、堅苦しくなく読めるから安心して下さい。五十代の伝治が最近の若い者は・・と思いながらも、職場や地域の若者と祭を盛り上げようとします。年齢に関係なく、お互い歩み寄る事が大切ですね。あなたも、まず歩み寄る事から始めませんか？

## 『ハケンアニメ！』

**辻村　深月/著**

**マガジンハウス**

**F/ツシ/14(図書館４階一般/ふじとう/西部)**

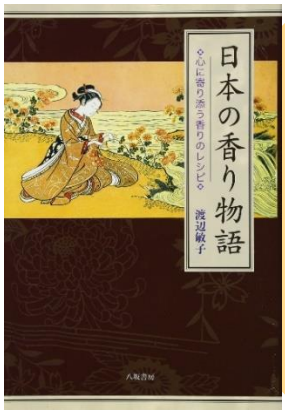
３人の女性プロデューサー、監督、アニメーターの目線を通して描かれるアニメ制作の現場です。創造の場だからこそ、０から１を生み出す事の苦しさ、天才と付き合う事の難しさ、同じ情熱を持つ仲間の素晴らしさが胸にしみます。

この作品を読むと、アニメって子供やオタクだけが見るものでしょなんて言えなくなります。偏見にとらわれずに、新しいものにも興味を持とうと感じます。

おすすめ本紹介

# 香り

人間には、５つの感覚があるのはご存じですね？五感による情報入手のうち嗅覚はたったの３％にしかすぎないのですが、心をリラックスさせたり、リフレッシュしたり、香りの持つ影響力は、はかりしれません。日本では香、外国では香水。昔から人々によって受け継がれてきた香りについて書かれた本を集めてみました。




## 『日本の香り物語』

**渡辺　敏子/著　八坂書房**

**576.6/二/12（図書館４階一般）**

源氏物語には、様々なお香の香りがしるされています。まだ灯りが発達しておらず、視覚に頼る事が難しかった時代、香を焚き占める事でその人のアイデンティティをあらわしていたようです。平安時代に実際に使用されていた練り香の成分や作り方、現代では忘れ去られてしまったお香の香りが意味する事など興味深いことが紹介されています。

## 『匂いと香りの文学誌』

**真銅　正宏/著　春陽堂書店**

**910.26/二/19（ふじとう）**

香りや匂いによって呼び起こされる人間の記憶というものを経験したことがある人は少なくないのではないでしょうか？鼻で感じる匂いではなく文字による視覚から脳が感じる嗅覚とは？田山花袋、夏目漱石、村上春樹などの文豪達が文字によって読み手に感じさせる香りや匂いをいかに表現したのかを感じてみてください。

## 『フランス香水伝説物語』

**アンヌ・ダヴィス/著**

**ベルトラン・メヤ＝スタブレ/著**

**清水　珠代/訳　原書房**

**576.7/フ/18（ふじとう）**

香水は最初から現代の様な形ではなったようです。大昔はどんな形体だったのか？どんな使われ方をしてきたのか？あびるように香水を使っていた英雄もいたらしいです。そして、ゲラン、シャネル、エルメスなど現代でも有名なブランドの香水たちがいかにして誕生したのか？その香水たちによって織りなされたたくさんの物語を教えてくれます。